

【用語解説】

50音	用語 【用語読み方】	解説
あ	ICT(情報通信技術) 【あいしーていー(じょうほう つうしんぎじゅつ)】	ICTとは、「Information and Communication Technology」の略で、情報通信技術を表す言葉。コンピュータやインターネットなどの情報コミュニケーション技術のことを指す。
	アウトリーチ 【あうとりーち】	手を差し伸べることが原義。文化の分野では、文化に触れることが少ない人、関心のない人などに対して、積極的に手を差し伸べ、文化とのふれあいを創出する活動を意味する。一般的には、施設外での活動を指すことが多いが、施設内であるか外であるかは本来の意味にはない。
え	SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス) 【えすえぬえす(そーしゃる・ねっとわーきんぐ・さーびす)】	Social Networking Service の略。個人間のコミュニケーションを促進し、社会的なネットワークの構築を支援する、インターネットを利用したサービスのこと。
か	学習支援員 【がくしゅうしえんいん】	市立小学校及び中学校に通う支援が必要な児童・生徒に対し、移動、その他身辺処理や生活支援、学習支援を行う者。
	学校支援地域本部 【がっこうしえんちいきほんぶ】	地域住民が積極的に学校支援活動(例えば、学習支援活動、部活動指導、環境整備、登下校安全確保、学校・地域との合同行事の開催等)に参加し、教員を支援することにより教員の負担軽減を図るとともに、地域住民と児童生徒との異世代交流を通じて弱まった地域との絆を回復させ、地域の教育力の活性化を図る取り組み。「地域コーディネーター」、「学校支援ボランティア」、「地域教育協議会」から構成される。

か	学校支援ボランティア 【がっこうしえんぼらんていあ】	学校支援地域本部において、実際に支援活動を行う地域住民など。
き	共育 【きょういく】	世代間交流を通じて、共に学び合い、共に育つこと。
	教育相談コーディネーター 【きょういくそうだんこーでいねーたー】	神奈川県では、子ども一人ひとりの課題を解決するためには、それぞれの教育的ニーズを把握し、それに基づく支援の計画・実施・評価をする教育相談のプロセスを通じて校内の支援体制づくりを進めることが重要としている。教育相談コーディネーターはそのキーパーソンとして、教育相談のプロセスの連絡調整や進行管理を行い必要に応じて学校内外の人や関係機関と連携し教育的ニーズを有する子どもへの支援を協働で行うための役割を担っている。
く	グループワーク 【ぐるーぷわーく】	「対人関係ゲーム」と呼ばれ、田上不二夫氏（元筑波大学教授、元日本カウンセリング学会理事長、現東京福祉大学教授）を中心に開発した集団カウンセリング技法で認知行動療法を背景理論とする。「ジャンケン」などで声を出し動き回ることによって不安や緊張を和らげ、他者と交流することの楽しさを知ることから始まる。人と触れ合う楽しさを基盤に、さまざまなゲームの中で楽しみながらお互いを認め、役割を分担して協力し合い、お互いを尊重し配慮し合あうことを体験的に学べる。発達障がいのある子ども、対人関係がうまくいかない子ども、集団になかなかなじめない子どもなどを受け入れられる援助的な集団づくりのプログラム。

け	<p>現在の課題 【げんだいてきかだい】</p>	<p>昨今の社会情勢を受けて市民として知る必要のある課題のことで、例えば、環境問題、人権問題、教育問題、防災問題、地域開発、福祉問題、高齢化問題、医療・衛生問題、男女共同参画などの内容が考えられる。</p>
こ	<p>構成的グループ・エンカウンター 【こうせいてきぐるーぷ・えんかうんたー】</p>	<p>1967年に国分康孝氏(元日本カウンセリング学会会長)が提唱した開発的集団カウンセリングの技法。エンカウンターとは「人とのふれあい」を意味し、対人関係を深め自己の発達を促進するには「自己開示」が必要との立場をとる。自己開示するには一定の枠(ルール)が必要であり、その枠の中で安心して本音を語る事ができる。常に「私はこう思う」というメッセージ(Iメッセージ)で自分の本音を相手に伝え、また、相手もIメッセージでフィードバックする。このような本音の交流を通して自己や他者を受容できるようになり、お互いを認め合うことができるとする学級づくりのプログラム。</p>
	<p>個別計画 【こべつけいかく】</p>	<p>分野別の行政課題に対応していくための計画や、法令などによって策定が義務付けられていたり、策定努力が求められている計画。</p>
し	<p>支援教育 【しえんきょういく】</p>	<p>特別支援教育は、障がい児教育の新しい呼称。2001年(平成13年)の春から文部科学省は、旧来の特殊教育という言い方に代わって、この呼称を使用している。神奈川県では障がいのある子どもの他に通常級に在籍している発達障がいの子どものや不登校の児童生徒なども含め、教育的ニーズを持つものとして、広く「支援教育」と呼んでいる。</p>

し	支援教育推進巡回指導員 【しえんきょういくすいしんじ ゆんかいしどういん】	市立小・中学校に支援教育推進のために派遣している指導員。支援を必要とする子どもたちが学級集団の中で困らないよう、個に応じたアドバイスを行っている。また、巡回指導員が直接、学級でグループワーク等を行い、子ども同士の望ましい関係づくりをレクチャーしたり、教職員に対しては、支援教室の運営方法や教材についてアドバイスを行ったりする。
	支援シート 【しえんしーと】	神奈川県において、「個別の支援計画」または「個別の教育支援計画」を作成するときの書式の呼称。支援シートは、教育的ニーズのある児童生徒に関して、次の進路先(就学先、進学先等)に伝え、進路先の指導や支援に生かすことを目的として神奈川県教育委員会発行のパンフレットに沿って作成する。主な事項は、「これまでの取り組み」や「取り組みの評価」等で、保護者・担任等とともに記載してく。
	指定管理者制度 【していかんりしゃせいど】	公の施設の管理運営を、地方公共団体が指定した民間事業者を含む法人・団体に行わせる制度。
	市民交流センターフェア 【しみんこうりゆうせんたー ふえあ】	市民交流センター利用団体(市民活動団体や生涯学習団体)の発表や活動紹介などを行い、交流の場となる市民交流センターのイベントをいう。
	社会教育 【しゃかいきょういく】	学校教育法に基き、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動(体育及びレクリエーションの活動を含む。)をいう。
	小1プロブレム 【しょういちぷろぶれむ】	小学校に入学したばかりの児童が落ち着いて教師の話を聞けず、友達と騒いだり、教室を歩き回るなどして授業が成立しない状態。

し	生涯学習 【しょうがいがくしゅう】	一人ひとりが健康で豊かな生活を営むことや、仕事に役立つ知識や技術を身に付けたり、生きがいのある充実した人生にするため、自分の意思に基づき、必要に応じて自分に適した手段や方法を選んで生涯を通じて行う学習活動。
	情報リテラシー 【じょうほうりてらシー】	情報を自己の目的に適合するように使用できる能力のこと。「リテラシー (literacy) とは、本来は、文字の読み書き能力を意味し、これを情報一般に当てはめて情報リテラシーと呼んでいる。情報は様々な形式で表されるため、情報リテラシーは、これまでの文字に代表される印刷物以外のメディアについても広く対象とされるようになってきている。現在では、コンピュータ(モバイルフォンやネットワーク全般を含む。)の普及から、特にこれらを扱う能力を指すようになってきている。
す	スクールカウンセラー 【すくーるかうんせらー】	学校に配置されたカウンセラーのこと。神奈川県では、いじめや不登校などの様々な課題解決を図るために心の専門家であるスクールカウンセラーを各中学校に配置し、そこを拠点に学区の小学校にも派遣している。児童・生徒や保護者、教職員の悩み等に対して専門的な知識や経験に基づいて相談に応じている。勤務は週1日7時間の勤務。また、逗子市内では市費でスクールカウンセラーを雇い、小学校を中心に巡回して相談にあたっている。
	逗子アートフェスティバル 【ずしあーとふえすていばる】	市民が主体的に参加し、逗子のまちなかを使って開催する地域文化の祭典。「地域の文化を市民の手で拓く」という基本方針を具体的に示すものとして開催されている。

す	ずし楽習塾 【ずしがくしゅうじゅく】	市民主導の生涯学習を推進するため、市民自身がつくる「教える場」、「学ぶ場」、「ふれあう場」を通じて、市民が市と協働し、主体的、継続的に学習活動を行うことを目的とした事業。
	逗子市まちづくり基本計画 【ずししまちづくりきほんけいかく】	約130名の公募市民からなる逗子市まちづくり基本計画市民会議の作成した素案をもとに提案され、逗子市議会の審査・議決を経て平成19年12月に策定された計画。
	スポーツ都市宣言 【すぽーつとしせんげん】	青い海と豊かな緑に恵まれた美しい郷土にあって、生涯を通してスポーツを愛し、スポーツに親しむことにより、健康な心とからだをつくり、明るく活力に満ちた、創造力あふれる逗子市を築くことを目的に、昭和59年5月に告示された宣言。
そ	総合型地域スポーツクラブ 【そうごうがたちいきすぽーつくらぶ】	<p>地域住民個々人のニーズに応じた活動が質の高い指導者のもとに行えるスポーツクラブであり、以下のような特徴がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 単一のスポーツ種目だけでなく、複数の種目が用意されている。 2. 障害者を含み子どもからお年寄りまで、また、初心者からトップレベルの競技者まで、そして、楽しみ志向の人から競技志向の人まで、地域住民の皆さんの誰もが集い、それぞれが年齢、興味・関心、体力、技術・技能レベルなどに応じて活動できる。 3. 活動拠点となるスポーツ施設を持ち、定期的・継続的なスポーツ活動を行うことができる。 4. 質の高い指導者がいて、個々のスポーツニーズに応じた指導が行われる。 5. スポーツ活動だけでなく、できれば文化的活動も準備されている。

た	体験学習施設「スマイル」 【たいけんがくしゅうしせつ 「すまいる」】	平成 26 年 4 月に第一運動公園内に開所した施設で、小さい子どもと保護者が憩う場所、中学・高校生の居場所、生涯学習からスポーツまでいろいろな活動をする場所、様々な世代が交流する場所、いざという時の防災拠点などの機能を兼ね備えたもの。スマイルは愛称。
ち	地域コーディネーター 【ちいきこーでいねーたー】	学校支援地域本部において、学校支援ボランティアに実際に活動を行ってもらうなど、学校とボランティア、あるいはボランティア間の連絡調整などを行い、学校支援地域本部の実質的な運営を担う者。
	地域課題 【ちいきかだい】	市の行政課題になっている事項などが考えられ、例えば、ゴミの減量化・資源化、地域コミュニティの活性化、ボランティアの育成などが考えられる。
	中 1 ギャップ 【ちゅういちぎゃっぷ】	小学生から中学 1 年生になったとたん、学習や生活の変化になじめずに不登校となったり、いじめが急増するという現象。
と	トリエンナーレ 【とりえんなーれ】	イタリア語 (Triennale) で「3 年に一度」の意味。3 年に一度イベント等を行うことをいう。
な	長柄桜山古墳群 【ながえさくらやまこふんぐん】	逗子市と葉山町の境、桜山 7・8 丁目地内にある 4 世紀後半頃に造られた 2 基の大型前方後円墳。1999 年 (平成 11 年) 発見。双方とも長さは 90 メートル程で、県内最大級。埴輪の出土のほか、2 号墳は葺石で覆われ、関東地方の同時期のものとしては貴重な古墳群。2002 年 (平成 14 年) 国史跡に指定。
	名越切通 【なごえきりどおし】	鎌倉と三浦半島方面とを結ぶ交通路。鎌倉七口のひとつで、鎌倉時代に尾根を掘り割って造られたとされる。小坪 7 丁目、久木 9 丁目に所在。周辺には人工的な平場や切岸、やぐらなどが多く、鎌倉周縁部の歴史的景観を良く残している。1966 年 (昭和 41 年)、国史跡に指定。

ふ	ふれあいスクール 【ふれあいすくーる】	小学校の余裕教室等を活用して、放課後の子どもの遊びの場を提供するもの。異年齢交流などを通じ、子どもたちの創造性、社会性を養い、児童の健全な育成を図ることを目的に市が全小学校に設置している。
ほ	ポータルサイト 【ほーたるさいと】	インターネットを利用する際、まず最初に閲覧されるような利便性の高いウェブ・サイトの総称。ポータル(portal)は、玄関、入口の意味。
ま	埋蔵文化財 【まいぞうぶんかざい】	埋蔵文化財とは、土地に埋蔵されている文化財で、貝塚・古墳・都城跡・旧宅その他の遺跡を指す。
	まちなか文化 【まちなかぶんか】	市民が、自分にあった文化を選び、創造していくことで、市民の生活とともにあり続け、日常的に表現されていく文化を表現している。
も	モニタリング 【もにたりんぐ】	指定管理者による公共サービスの履行に関し、条例、規則及び協定等に従い、適切かつ確実なサービスの提供が確保されているかを確認すること。また、安定的、継続的にサービスを提供することが可能であるか監視(測定・評価)し、確認内容等の公表を行うとともに、必要に応じ改善に向けた指導・助言を行う一連の仕組みのこと。
ゆ	ユニバーサルデザイン 【ゆにばーさるでざいん】	すでにあるバリア(障壁、障害、不便)を取り除くというバリアフリーの考え方をさらに進めて、はじめから年齢や能力に関わりなく、すべての人に快適な環境空間づくりを行っていくとする考え方。
ら	ライフステージ【らいふすてーじ】	人間の一生を発達段階ごとに分けた「幼年期」「青年期」「壮年期」「老年期」などの段階のこと。